

砂と暮らし
砂に学ぶ

10月末に鳥取をたった3人の学生は、シリアの国際乾燥地農業研究センターで、「乾燥環境下での持続的な土地・水資源管理」に関する講義を受講するコースに参加した。

このコースは、砂漠化対策や乾燥地の土地・水資源の管理のあり方に関する基本的な知識を学ぶためのもので、シリア、チュニジア、パレスチナなどの学生も参加して、国際色豊かな雰囲気の中で行われた。講義はもちろん英語である。

講師は世界各地の大学・研究所の研究者があたり、



国際乾燥地農業研究センター(シリア)の正面玄関にて、参加学生らと記念撮影。著者(前列左端)は、乾燥地研究センター・坪准教授(前列中央)と講義を担当した。後列左から3人は鳥取大学の学生

鳥大から世界へ羽ばたく若者たち

私もコース最後の3日間の講義を受け持った。

講義の内容は、作物用水量の算定方法と灌漑システムの計画・管理法についてである。学生たちにとっては最初の試練であったと思うが、われわれがシリア入りしたころにはすでに現地の生活にも慣れ、他国の学生たちとも和気あいあいと学んでいた。

約1カ月におよぶ講義を終え、まずは第一関門を見事クリアした。学生たちはこれから、シリア、中国などそれぞれが希望する研究機関に赴き、個別に設定した研究テーマに取り組みることになる。

(鳥取大学農学部・教授 北村義信)

(水曜日に掲載)